

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.044

田中 康夫



たなかやすお ● 56年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。
'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。
'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。【公式ブ
ログ】 www.nippon-dream.com/



Ya'ssy

9席がゆったりと配置された “隠れ家”と呼ぶに相応しき空間

今週の逸品



牛タリアータ、豚バラとルッコラの主菜 晚餐3800円より

午餐はバスタ、コーヒーで900円。食べ切れぬ程の大盛りサラダ付きで1200円。何れもパン食べ放題。サルディニアを想起させる唐團のバスタ(2000円)を始めとする晚餐の料理も卓越。白いんげん豆のトマト煮込み(800円)、ハム盛り合わせ(1200円)等の前菜に続いて、石川氏と会話しながら料理を選ぶと宜しい。HP上のクーポンを持参すると、通常6000円のタリアータ晚餐コースがスブマンテ付き5000円で愉しめる。

【ブーカ・ジュンタ】東京都渋谷区神宮前2-3-30 神宮前ベーシックビル1F ☎03-6808-6009
営業11:45~14:00(LO)、18:00~24:00 定休:日曜祝日 禁煙 <http://www.bucajunta.com/>

illustration by Hajime Anzai



清水達夫、岩堀喜之助の両名が凡人社を設立し、平凡社から「平凡」の雑誌名称を譲渡されたのは1945年。敗戦の年です。54年に平凡出版へと社名変更し、月刊誌「平凡」も59年創刊の「週刊平凡」も優に100万部を超える国民雑誌となります。「美空ひばり」と共に「戦後」を創りました。大学3年時に清水氏から好誼を得た僕は木造校舎を彷彿させる銀座3丁目の本社へ幾度か訪れます。学校給食を想起させる賤い食堂が印象的でした。腹が減っては戦が

出来ぬと呟くや即座に、僕は平和主義だと応じられました。留年が契機で応募の処女作「なんとなく、クリスタル」が80年に文藝賞を受賞すると我が事の如く喜んで下さった彼は、その3年後に詩の雑誌「鳩よ!」を創刊します。新社屋竣工を機にマガジンハウスへ社名変更し、世界中の雑誌を蒐集したギャラリーをロビーに設けたのも彼の発案でした。清水・岩堀両氏の聲に接した僕には、2人が本田宗一郎氏と藤沢武夫氏、井深大氏と盛田昭夫氏

の二人三脚と重なり合います。清水氏の薫陶を受けて木滑良久氏、淀川美代子嬢を始めとする名編集者が時代を築きます。マガジンハウスは現在も存在します。が、HPの会社概要には現社長の氏名が記されるのみ。社歴は1行も掲載されていません。過去に眼を閉ざす者は現在にも未来にも盲目となる」の警句が何故か脳裏を過ります。閑話休題。石川次郎氏も「清水門下生」でした。「ポパイ」編集長を経て「ブルータス」創刊に携わ

ります。停学処分中の80年5月に創刊号を買いたった僕は、昂奮を覚えました。「なんくり」の脚注にも登場する符丁「ポパイ少年」「J・Jガール」に継ぐ時代の到来を直感したからです。穴蔵を意味するブーカと主の名前・淳太を店名に冠した「ブーカ・ジュンタ」は、神宮前2丁目の裏道に面したトラットリア。「隠れ家」と呼ぶに相応しき空間に9卓ゆったりと配置されています。晚餐は前菜・麺類2皿・主菜・食後で5000円。前菜・主菜・食後で3800円。前菜・主菜は複数の品書きから選択可能。プラス1000円で主菜にイチボ肉のタリアータを摂れます。タリアータは切り分ける。転じてトスカーナの肉料理。イチボは臀部の先の牛肉を指します。「腎骨」がH型IIエゴソールイチボになるが故にイチボと呼ばれるに至ったのだとか。次郎氏の息子の淳太氏は18歳でイタリアへ出掛け、ダル・ベスカトリーで修行を積みました。97年に訪れた際、道路を横切る兎を僕の運転する車の前照灯が照らし出した瞬間、現在は妻の彼女が助手席で「うわっ、ウサギのレストランド」と叫んだ、マントヴァ近郊の人口100人にも満たぬ農村の外れの玉蜀黍畑の中に佇む「三つ星」料理店。とまれブーカ・ジュンタは遅めの晚餐に相応しき寛ぎの時空です。